

株式会社藤里開発公社の経営状況について

株式会社藤里開発公社の経営状況について、6月議会定例会で報告したので公表いたします。

令和3年度藤里開発公社部門別損益計算書 (R3.4~R4.3)

(単位：千円)

科 目	ホ テ ル	健康保養館	加工センター	白神山水 生産販売	本 部	合 計
売 上	69,527	28,393	21,197	74,038	0	193,155
加 工 手 数 料	0	0	11,583	0	0	11,583
指 定 管 理 料	0	27,950	5,902	14,769	0	48,621
売 上 計	69,527	56,343	38,682	88,807	0	253,359
期 首 在 庫	860	462	3,503	6,169	0	10,994
当 期 仕 入	18,375	4,677	11,265	19,733	0	54,050
期 末 在 庫	992	352	3,108	6,248	0	10,700
売 上 原 価	18,243	4,787	11,660	19,654	0	54,344
売 上 総 利 益	51,284	51,556	27,022	69,153	0	199,015
一 般 管 理 費	63,829	56,225	26,695	54,564	5,977	207,290
営 業 利 益	△12,545	△4,669	327	14,589	△5,978	△8,275
営 業 外 収 入	602	421	300	1,296	22	2,641
営 業 外 費 用	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	△11,943	△4,248	627	15,885	△5,955	△5,634

※6月議会定例会で報告した資料を編集して作成しています。

※事業の収支状況を示すため、償却、補助対象を除いています。

●ホテル（売上高69,527千円、前年度比138.5%、19,317千円増）

新型コロナウイルス感染症拡大が続く中でありましたが、各種宿泊キャンペーンの実施による効果で、県内の宿泊客や日帰りプランの利用客などの獲得が売上げの増となりました。また、料理を月ごとに新しい献立に設定したことなどが高評価となりリピーターに繋がる結果となりました。各種団体等の総会や祭典の自粛などにより宴会の売上げは減少したままですが、ワーケーション関連の改装によりリモートで仕事をするビジネス利用者から評価されています。

●健康保養館（売上高28,392千円、前年度比110.5%、2,700千円増）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出自粛により、ゴールデンウィーク、登山シーズン、お盆や年末年始など、観光客や帰省客の利用が低調となり令和元年度当時の水準までは伸びなかったがホテル利用者の増が入館者数の増に繋がりました。

●加工センター（売上高32,780千円、前年度比84.2%、6,143千円減）

新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛が影響し、全般的に取引業者からの受注量が減少しました。ラム肉については、首都圏での外食向需要が回復しなかったため、町民への販売や県内外の業者への販売を実施しました。

このような状況ではありましたが、ジュース・アイスの売上げは安定しており、ジュースについては、異業種との連携による新たな商品づくりを行いました。

●白神山水生産販売（売上高74,038千円、前年度比117.7%、11,143千円増）

全国的にミネラルウォーターの需要が増加する中で、主要取引先によるペットボトルのリニューアルと販売計画の見直しにより受注が回復しました。

<指定管理料について>

開発公社の運営5部門のうち、健康保養館（共同福祉施設を含む）・加工センター・白神山水の館は町有施設であり、町は開発公社と指定管理協定を結び、管理運営を委託しています。健康保養館は、低料金で町民等の健康増進を図るもので、加工センター及び白神山水の館は、特産品開発や資源を活用した地場産業の振興を目的として運営されております。

これらの施設の維持管理には、保守料や維持修繕費、水道光熱費や管理のための人件費が掛かるため、町では、施設の健全な運営が図られるよう、維持管理に要する経費の1/2相当と人件費の一部について、一定のルールにより算出した指定管理料を支払っております。

(※1) 指定管理料は赤字・黒字で増減するものではなく、施設を管理運営するための経費であり、年度当初に契約した協定に定める金額を基準として支払うものです。